

HPのコラム：これまであった51の問い合わせに答えます

これまで多くの自然災害の現場に立ち会い、NPOとして地域の方々や学校とのかかわりの中で強く思っていたことは、防災や減災には現象に対して関心を持っていただくことが必要であるということです。災害が通り過ぎて、ある程度の復旧で、普段の生活に近いところまで来ると、これまでのことを忘れがちになるというのは致し方がない面もあります。しかし、自然災害は一度来たからもうしばらくはないという保証はありません。何せ、この日本列島が災害列島とも呼ばれ、発生条件として素因も誘因も多くあるからです。

これまでの活動の中で、様々な想いとか疑問をいただき、なんかすっきりしないというようなこともお聞きしました。その場で、即決するほどの知識も技量もありませんが、いつまでも心に残っているということは、これからの災害対応では大事なことではないかと考えています。これが正解ということではありませんが、51のことがらについて触れさせていただきます。

(伝達編)

1. 自然災害と暮らし、災害は時代とともに進化している
2. 自助が基本といわれるが自助とは？ 自分ができるとはなにか？
3. 3助（自助・共助・公助）をつなぐのは、だれ、なに？
4. 大震災から学んだことを、自分のため、隣人のため、社会のために
5. 災害への関心を持つことで何が変わるのか
6. 知って得するってどんなこと、納得して行動できること
7. 助けるためには助かること、備えは何か？
8. 災害勘は、試合勘と同じ、練習で泣いて試合で笑う
9. 地質屋だから伝えられること、敵を知り、近寄らず、かわす処世術
10. 自然災害は他人事ではない、いつでもどこでも起きること
11. 災害列島で暮らす、災禍とめぐみの中で上手に生きる
12. 自然災害における地形や地質の存在、大事なことは地味なこと
13. 自然災害はなぜ怖いのか、起きるまではわからないことだらけ
14. 自然との距離が遠いほど被害が大きい、自然の偉大さに共感する
15. 地域を知るってどんなこと、得することは？
16. 防災訓練を実践的なものにする
17. 災害発生時の住民の対応、起きて初めて分かることがある
18. 学校教育の重要性、子供たちへの期待
19. 山もない、海から遠い、平坦地だから災害には無縁？ 思わぬ伏兵に要注意！
20. 防災行動力とはなにか？ その気になれば力はつく
21. 暮らしの安全は防災+福祉+まちづくりの三位一体化
22. 前門の虎、後門の狼？ 一難で終わらないのが自然災害

(知識編)

1. 海溝型地震の周期について、どう理解すればよいのか？
2. 大地震ってなに？どうなれば大地震になるのか？
3. 東日本大震災(2011年東北地方太平洋沖地震)で絶対に伝えておきたいことは？
4. 内陸地震は、どこでどうして起きるのか？
5. 内陸地震の発生予測をどう見るべきか？
6. 活断層が確認されている地域での特別な備えはあるか？
7. 火山灰の思わぬ被害は火山灰の特性と気象による？
8. 洪水や浸水になる要因が、いま大きく変化しているように思われるが？
9. 内水氾濫と外水氾濫とのちがい、各々の特徴は何か？
10. 内水氾濫の特徴と避難するときの心得は？
11. 線状降水帯は西日本特有の気象か、東北地方には関係ないのか？
12. 土砂災害を減らすために考えられるソフト的な対応はなにか？
13. 土砂災害の中でも土石流が怖がられるのはなぜか？
14. 都市型災害とは何か？
15. 都市型災害の被害者にならないための基本は何か？
16. ハザードマップとは何か？
17. ハザードマップにはどんなものがあり、何の役に立つのか？
18. ハザードマップをどう見るのか、見るときの注意点は？
19. ハザードマップを活用するには？
20. 警報について、知っておくべき基礎知識は？
21. 防災教育で最も重視されるものとは何か？
22. 地域の防災力を向上させる基本は何か？
23. 災害に対応した避難場所や避難ルートについて知っておくべきことは？
24. 防災マップの重要性と活かすための知恵とは？
25. 誰にもある正常性バイアスが働いてしまう背景は？
26. 災害発生時、避難に二の足を踏む理由には何があるのか？
27. 頭でっかちにならない防災・減災へのススメとは？
28. 「自然災害への対応は弱いところ、弱くなる場所を知ることである」との意味は？
29. 確実に避難行動が行われるためにはどうすればよいか？

1. 自然災害と暮らし、災害は時代とともに進化している

私たちは、自然環境の中で暮らしていることを実感するのが、様々なところで発生する自然現象を自然災害によって再認識する場合だと思います。自然には勝てないというようなことを聞くことも多いのですが、どうも普段は人間優先での利便性を優先して、自然への関心が薄くなっていることがあります。

そもそも、自然災害は人間を敵として攻撃しているわけではなく、大きな自然の循環サイクルの中での現象です。自然現象が対象物との関係によって、被害になったり恩恵になったりするわけで、ほとんどの災害は止めることはできなくとも避けることあるいはその影響を小さくすることは可能なことだと思います。

そもそも、人間が地上に足をつけた時に地形が目の前にありました。その地形は常に変化し、特に火山噴火、大地震、山体崩壊という大きな自然現象によって、日常の景色が一変することがあったでしょう。また、周期的な現象で豪雨や土砂災害もあったと思われますが、これらのことはこれまでも連続している自然現象でもあります。そのような中で、経験を積みながら自然と共生し或いは回復可能な範囲で自然環境を利用してきたと思われます。

しかし、近代化が始まり産業が進展し都市化が進んでくると、これまでのような生活環境では不十分で、積極的に自然を改変し、利便性や機能性を追求することが求められてきました。そうすると、それが自然環境のサイクルを狂わせ、災害の対象となるものも集積することとなり、よく言われる災害の進化ということになります。大災害は、大きな自然現象と被害対象物の複雑さと関係していることにより、人口集中、インフラの集積が被害を拡大しているというのはおおよそ妥当なことです。

このような自然災害は、経験することが重要なことですが、私たちの考古学的な知見でもせいぜい2万年前程度のことで、あまりにも経験不足なところでは、一言でいえば、自然災害は不定性なもので、何が、いつということは大変難しいことです。したがって、わずかな経験知から知見を積み重ねて、どこに何が、どのような誘因で起きるのかを想定しながら暮らすということになります。

自然の中で暮らすということは、日常的なことと言えば、土地利用ということになります。これまでの経験から、自然災害が起きない、起こりにくいところを選定して暮らすことが一番ですが、人口集中が進むとこのような適当な土地を得ることが難しくなって、造成や干拓、埋め立てというような人工的な改変で土地を確保していくことになります。そうすると、中にはその土地の特性や過去の履歴、地形を軽視してその特性への対応が不十分だと、自然現象の直撃を受けることが生じてきます。例えば、造成地などでは谷埋め盛土のような所は基礎処理や排水処理が不十分だと地震時に地すべりが発生したり、切土盛土の境界部で予期せぬ変状に見舞われるということにもなります。そして、都市部への人口集中と地方の過疎の問題は、社会的な問題であると同時に、防災の観点からも課題は多く、災害発生時の規模や被害の程度にも密接に関係しています。